

本事業に取り組むエリア(自治体名)	埼玉県幸手市、埼玉県北葛飾郡杉戸町地域	
本事業の実施主体	埼玉県幸手市健康福祉部介護福祉課、埼玉県北葛飾郡杉戸町高齢介護課	
本事業に参画する団体名	地域ケア拠点菜のはな、NPO法人SOHOすぎと、埼玉県幸手市健康福祉部介護福祉課・市民生活部危機管理防災課、埼玉県北葛飾郡杉戸町高齢介護課・危機管理課	
地域の状況	①人口	幸手市:49,224人 杉戸町:44,087人(令和5年6月1日現在)
	②地域の特徴	高齢化率は幸手市35%超え、杉戸町33%超えとなり、少子化や人口減少も課題である。
	③災害等の歴史	江戸川や古利根川に囲まれ標高が低く、1947年のカスリーン台風による水害をはじめ過去に風水害が多く発生している。また、古利根川流域に位置して地盤が軟弱なことから地震の影響も大きく、災害史上最大規模のものとして関東大震災がある。
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	埼玉県幸手市にある急性期病院である東埼玉総合病院は、北葛北部医師会の事業として、院内に地域ケア拠点菜のはな(在宅医療介護連携と相談窓口)を設置し、在宅医療の推進や医療介護連携等の連携拠点となっている。医療介護資源が不足しているとされる幸手市・杉戸町において、すでにある地域の取り組みや方法を活かしながら、住民一人ひとりの複雑な生活と生活問題に向き合い、誰でも利用できるセイフティーネットを再構築することに取り組んでいる。
	⑤その他特記事項	
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	杉戸町では福島県富岡町と友好都市交流をしており、東日本大震災の際には、富岡町の住民の避難先として受け入れをした。幸手市においても富岡町の住民を受け入れた。その際の経験や教訓を生かすべく、平成25年度国土交通省広域的地域間共助推進事業として「協働型災害訓練」をスタートさせた。そこで、大規模災害・首都圏災害に備えるため、防災関係者と行政を対象にした訓練を、毎年2日間にわたり実施している。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	行政、医療機関、介護施設、企業など個々のBCP策定は進んできているが、平常時から地元の方や地域社会と信頼関係を保ち、地域との共生に配慮したBCPが必要なため。
	③わが地域のBCP観点からの課題	地域防災計画が地域BCPIに落とし込まれるための協議を行う場がなく、住民らが地区防災計画を策定する際に指針となるものがない。さらに、災害弱者らを多く抱える地域包括ケアシステムは、防災機能を強化していく必要がある。
	④その他特記事項	
取り組み内容と目標	今年度のプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・幸手市、杉戸町における水害(地域防災計画参考)を想定し、市町内で広く把握し共有する。 ・これらの想定を取りまとめ、住民らが主体的に地区防災計画を策定する際に広く活用できるようにする。 ・これまで取り組んできた協働型災害訓練での経験をもとに、地域包括ケアシステムに防災機能を実装していく。